サイバー攻撃の脅威と 最新攻撃パターン

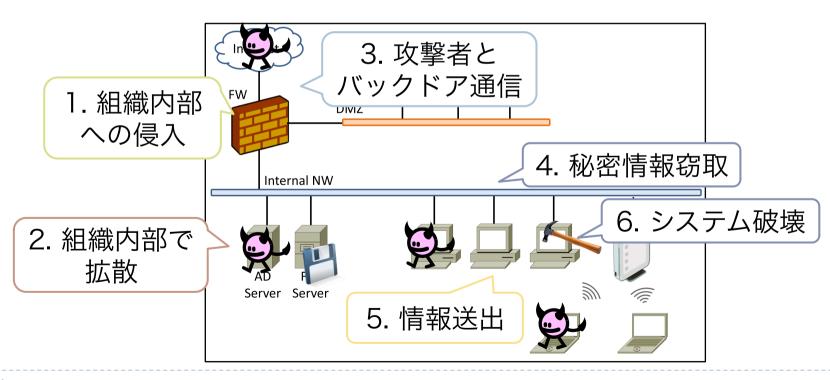
高倉弘喜 名古屋大学

今回の内容

- ■標的型攻撃の概要
 - ◆侵入を前提とした対策
 - 被害範囲の特定、事後対応や再発防止策
- ■クラウド活用の利点と注意点
 - ◆安全性向上
 - ◆迅速な状況解析と被害範囲特定
 - ◆インシデントレスポンスのための追加負荷
- 今後検討すべき事項
 - ◆ビル設備のネットワーク化
- ■進みつつある対策
 - ◆ 大学間CSIRT

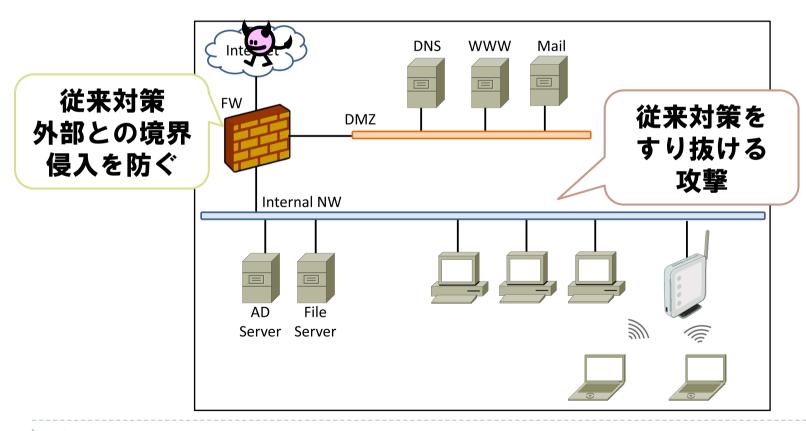
近年のサイバー攻撃

- 特定の攻撃対象、情報窃取などの目的→巧妙な手口
 - ◆ 事前の調査活動
 - ◆ 攻撃対象専用の、標的型メール攻撃や組織のNWに特化した攻撃
 - ◆ 長期間の潜伏



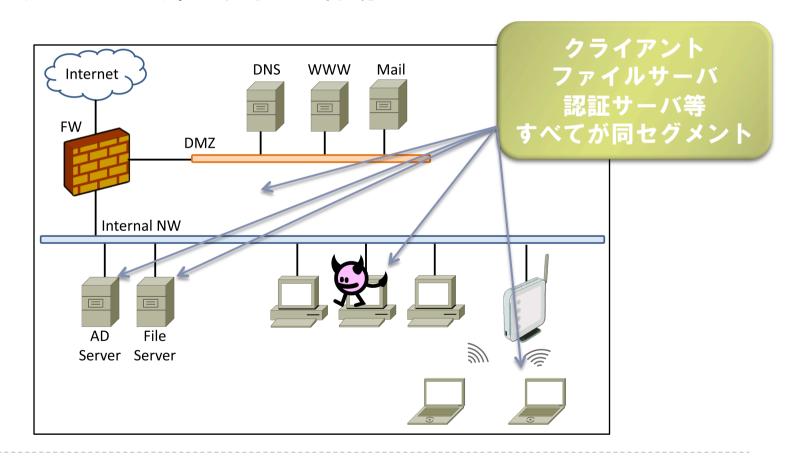
従来からのセキュリティ対策

- ファイアウォール、侵入検知システム、ウイルス対策ソフト
 - ◆ 組織の入口で侵入を防ぐための対策



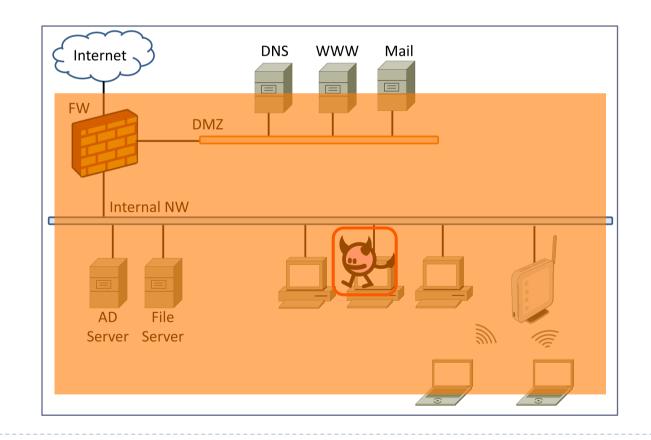
一般的な企業内部ネットワーク

- ■すべての機器が同一セグメント
 - ◆マルウェアは内部で自由に活動



インシデント時の対応

- ■マルウェア感染を発見した場合
 - ◆組織ネットワーク全体を停止 or 何もしない



侵入を前提とした対策の必要性

by IPA

従来対策

本システム設計対策セットの対象範囲

メールと ウイルス問題

内部侵入拡大問題部分 (内部対策を必要とする範囲)

1計画立案

・攻撃目標設定 • 関連調査

Taro — 1989/10/2









②攻撃準備



- ・標的型メール
- ・C&Cサーバ準備

③初期潜入



・標的型メール の送付

4基盤構築



- ・バックドア開設
- ·端末情報入手
- ·構成情報入手

5内部侵入 ⑥目的遂行





- ·他端末侵入
- ・サーバ侵入
- ·管理者情報窃取

⑦再侵入



・バックドアを通じ 再侵入

社外インターネットエリア ← ○→ 社内ネットワーク

- 内部ネットワークでの対策必須
 - ◆解析対象のトラフィック量増大
 - ◆ 新たな解析手法が必要に

情報窃取 システム破壊

·情報窃取

・システム破壊

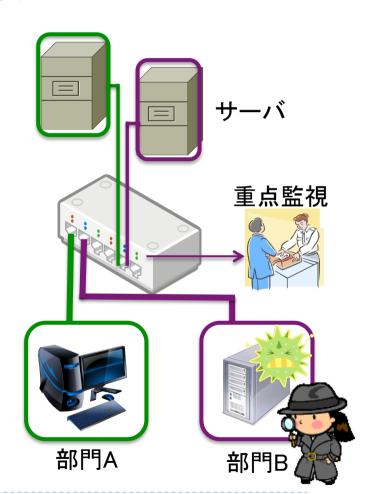
海外でも、侵入後の対策に重点を

■ NIST SP 800-61が求める対策

- Preparation
 - Secure systems, networks, application against attacks
 - e.g., security patches
- Detection & Analysis(検知&分析)
 - Detect sign of an incident.
 - e.g., various types of countermeasures
- Containment/Eradication & Recovery(封込め/根絶&回復)
 - ✓ Mitigate damage
 - Few solutions
- Post-Incident Activity

攻撃を受け難いネットワークの構築

- VLAN導入と木目細かなアクセス制御
 - ◆ 内部NWでのFW構築
 - ◆ VLAN間の無許可アクセスを監視
 - アクセスの存在検知
 - ✓ 設定ミス・異常動作
 - ・それはそれで問題
 - ✓ ステルス攻撃進行中の可能性
 - ✓ 不審なアクセスのみ重点監視
- VLAN巡回監視
 - ◆ 内部NWをざっくり監視
 - ステルス攻撃は凝視しても...
 - ◆解析対象のトラフィック量を削減
 - •「対策」の低コスト化

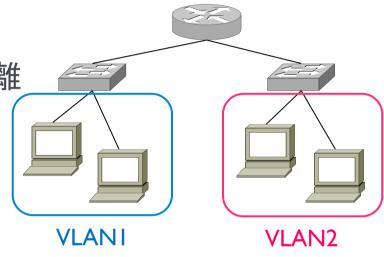


巧妙な攻撃への対策

■ネットワーク分離設計

◆ 内部ネットワークをVLANで分離

◆不要な通信の制御

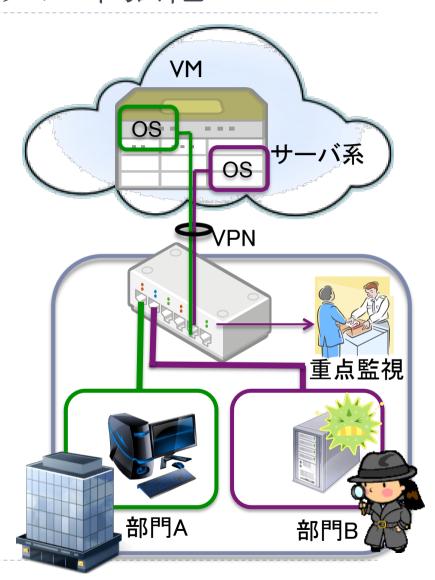


■ネットワーク自動設計

- ◆ネットワーク分離設計の応用
- ◆ ネットワーク構成算出、アクセス制御を自動化
- ◆異常時の動的なアクセス制御

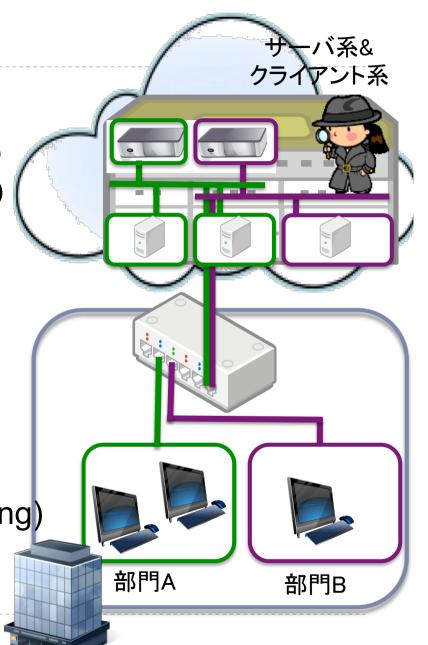
クラウド化によるセキュリティ強化

- ■サーバ系をクラウドに集約
 - ◆ 社内: クライアント系のみ
- ■標的型攻撃の目標
 - ◆ 重要情報の摂取
 - ◆ NW・システムの破壊
 - サーバ系攻撃の可能性大
- ■サーバ系の隔離
 - ◆重要情報の保護
- 監視ポイントの集約
 - ◆サーバ系への回線を重点監視 プライベートクラウドでもOK



次世代環境

- ■完全仮想化環境
 - ◆ サーバだけじゃなくクライアントも
 - VDI(Virtual Desktop Infrastructure)
- 全てのトラフィックが監視可能に
 - ◆ Server client間
 - ◆ Client client間
- DC内での監視
 - ◆ VLAN巡回監視の容易化
 - ◆迅速なインシデントレスポンス
- SDN(Software Defined Networking)
 - ◆柔軟なネットワーク運用



完全仮想化のメリット

- ハードウェアとソフトの寿命のミスマッチから脱却
 - ◆HWの陳腐化/劣化:4、5年後
 - ◆ OS/アプリケーションのサポート期間: 10年程度
 - 最新OSではサポートされない旧型マシンや周辺機器(プリンタとか)
- 統一されたセキュリティ対策
 - ◆ OS/アプリケーションの更新状況把握
 - 更新が遅れがちになるサーバ問題への対応
 - ✓ 不具合時:スナップショットによる切り戻し
 - ◆ アンチウイルスソフトによる一括スキャン
 - 外部からのVMディスクイメージに対するスキャン
- ■スナップショットによる迅速な業務継続
 - ◆ HW障害による業務停止を最小限に

VDI環境に適したインシデントレスポンス

■仮想マシン

- ◆ 定期的なスナップショット
 - 多世代バックアップ



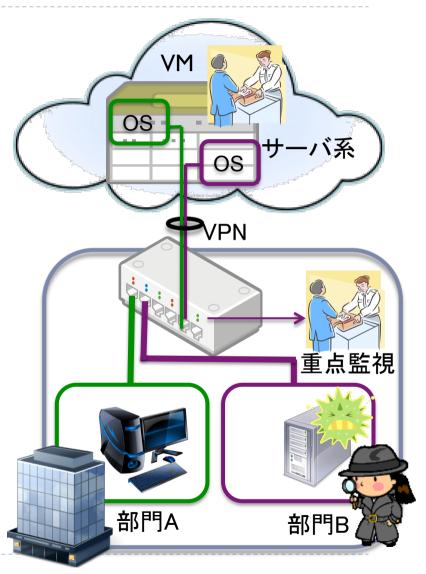
- ◆インシデント発生時期の迅速な特定
 - マルウェア感染と被害範囲
- ■スナップショット間の比較
 - ◆最終更新後の実行ファイル・ライブラリ入れ替わり
 - ◆ 外部によるファイルシステム全体の調査
 - rootkitの影響排除
- ■感染前の仮想マシンで業務継続
 - ◆監視強化は必須





クラウドにおけるセキュリティ対策の課題

- ■サーバ系の監視の限界
 - ◆ VMの物理的な位置
 - 複数の筐体…DCに分散
 - ◆VM間の通信
 - どこを通っているのか?
- 複数者で共有する筐体とNW
 - ◆自社のVMの通信のみ抽出
 - ◆インシデントレスポンスの為に…
 - IDSや解析システムが必要に
 - ✓ どこで動作させるのか?
- ■平常時の巡回監視
 - ◆ 許容範囲内の負荷増



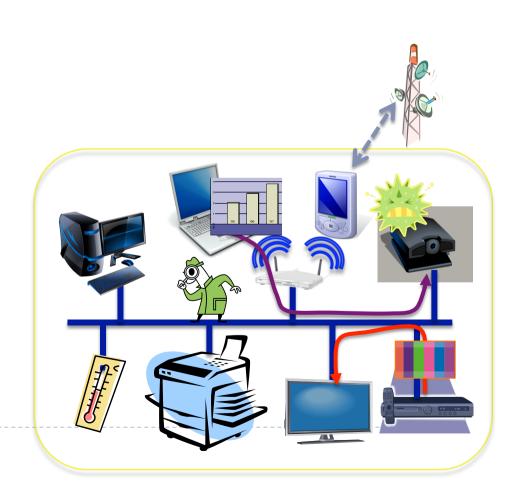
フォレンジックスへの影響も大

- ネットワークフォレンジックスの負荷増
 - ◆ 実ネットワーク不在 or 超高速実ネットワーク
- ■コンピュータフォレンジックスが困難に
 - ◆ VMのファイルシステム
 - OS+アプリ+αが一つのファイルに
 - VM上のファイルの追加、削除、変更
 - ✓ ファイルシステム内の論理的位置は特定可能
 - ✓ 実際にはどこにマップされるのか?
 - ◆ホストマシンの実ディスクシステム
 - HW RAID
 - ✓ 消されたファイルの磁気情報はどこに?
 - ✓ サボータージュ(破壊)活動の影響を受けやすい

様々なディバイスがネットワークに(去年の再掲)

■OA機器

- ◆プリンタ、スキャナ...
- ◆プロジェクタ
 - サーバ機能を搭載
- ■情報家電や建物設備
 - ◆ インターネットとの連携
 - 外部データに基づいた制御
- 少ないバリエーション
 - ◆攻撃の標的としては最適
 - 幅広い普及台数
 - ◆前線/中継基地として活用
 - 重要情報を最初から保持



狙われ始めたビル設備制御

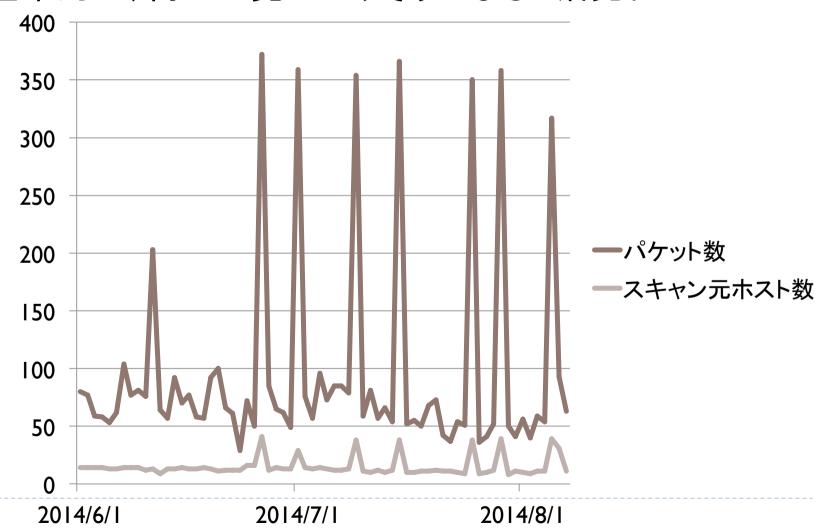
■ BACnet (Building Automation and Control Network)

Receive Time	Туре	Source		Source Country	Destination		From Port	To Port	IP Protocol	Application
08/07 15:09:07	end	82.	5.7	IS	133.6.	140	40000	47808	udp	bacnet
08/07 15:08:34	start	82.	5.7	IS	133.6.	140	40000	47808	udp	bacnet
08/07 15:06:29	end	82.	5.6	IS	133.6.	38	40000	47808	udp	bacnet
08/07 15:06:19	end	93.	.62	RO	133.6.	211	40000	47808	udp	bacnet
08/07 15:06:06	end	82.	5.6	IS	133.6.	225	40000	47808	udp	bacnet
08/07 15:05:56	start	82.	5.6	IS	133.6.	38	40000	47808	udp	bacnet
08/07 15:05:53	end	82.	5.7	IS	133.6.	19	40000	47808	udp	bacnet
08/07 15:05:46	start	93.	.62	RO	133.6.	211	40000	47808	udp	bacnet
08/07 15:05:33	start	82.	5.6	IS	133.6.	225	40000	47808	udp	bacnet
08/07 15:05:20	start	82.	5.7	IS	133.6.	19	40000	47808	udp	bacnet
08/07 15:03:26	end	82.	5.6	IS	133.6.	30	40000	47808	udp	bacnet
08/07 15:02:53	start	82.	5.6	IS	133.6.	30	40000	47808	udp	bacnet
08/07 15:02:19	end	82.	5.7	IS	133.6.	26	40000	47808	udp	bacnet
08/07 15:01:47	start	82.	5.7	IS	133.6.	26	40000	47808	udp	bacnet
08/07 15:00:06	end	93.	.62	RO	133.6.)	40000	47808	udp	bacnet
08/07 14:59:33	start	93.	.62	RO	133.6.)	40000	47808	udp	bacnet
08/07 14:59:28	end	82.	5.7	IS	133.6.	25	40000	47808	udp	bacnet
08/07 14:58:55	start	82.	5.7	IS	133.6.	25	40000	47808	udp	bacnet
08/07 14:58:40	end	93.	.62	RO	133.6.	211	40000	47808	udp	bacnet
08/07 14:58:08	start	93.	.62	RO	133.6.	211	40000	47808	udp	bacnet

増加傾向にあるBACnet探索

19

■基本的に、何かが見つかりそうになると活発化



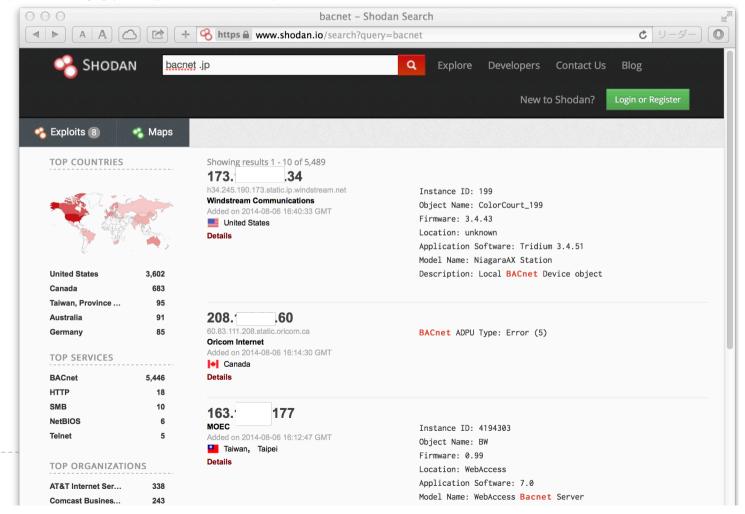
shodanによる探索活動

■日々調査

Receive Time	Туре	Source		Source Country	Destination		From Port	To Port	IP Protocol	Application
08/07 15:11:05	start	71.	.142	US	133.6.3		40000	47808	udp	bacnet
08/07 15:11:04	end	198	0.114	US	133.6.2		40000	47808	udp	bacnet
08/07 15:11:00	start	198	0.114	US	133.6.1		40000	47808	udp	bacnet
08/07 15:10:49	end	66.	92.138	US	133.6.1		40000	47808	udp	bacnet
08/07 15:10:46	start	66.	36.119	US	133.6.1		40000	47808	udp	bacnet
08/07 15:10:40	start	71.	.142	US	133.6.1		40000	47808	udp	bacnet
08/07 15:10:38	start	66.	92.138	US	133.6.1		40000	47808	udp	bacnet
08/07 15:10:32	start	198	0.114	US	133.6.2		40000	47808	udp	bacnet
08/07 15:10:24	end	71.	.142	US	133.6.2		40000	47808	udp	bacnet
08/07 15:10:21	end	71.	.200	US	133.6.9		40000	47808	udp	bacnet
08/07 15:10:20	end	198	9.74	US	133.6.1		40000	47808	udp	bacnet
08/07 15:10:20	end	71.	.131	US	133.6.1		40000	47808	udp	bacnet
08/07 15:10:20	end	71.	.131	US	133.6.2		40000	47808	udp	bacnet
08/07 15:10:19	end	71.	.142	US	133.6.1		40000	47808	udp	bacnet
08/07 15:10:17	start	66.	92.138	US	133.6.1		40000	47808	udp	bacnet
08/07 15:10:09	end	198	9.98	US	133.6.1		40000	47808	udp	bacnet
08/07 15:10:01	end	71.	.142	US	133.6.1		40000	47808	udp	bacnet
08/07 15:09:51	start	71.	.142	US	133.6.2		40000	47808	udp	bacnet
08/07 15:09:49	start	71.	.200	US	133.6.5		40000	47808	udp	bacnet
08/07 15:09:48	start	198	9.74	US	133.6.1		40000	47808	udp	bacnet

一般公開される調査情報

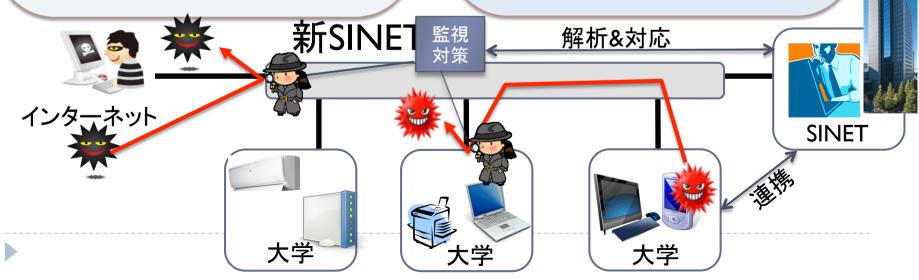
- ■脆弱な機器の情報も検索可能
 - ◆様々な目的で利用されている



動き出した大学での対策(案)

- 各大学の自己努力
 - ✓ 著しい体力差(教職員)
- 乏しい情報共有
 - ✓ 類似被害の多発
- 多様化するネットワーク利用
 - ✓ 在宅学習環境の普及
 - ✓ モバイル機器の持ち込み
 - ✓ OA機器などのネット接続
 - →困難な自力対策

- SINETのセキュリティ監視
 - ✓ 商用・海外接続での攻撃防止
 - ✓ 各大学のセキュリティ監視支援
- ■情報共有の枠組み構築
 - ✓ 関係機関の連携促進
- セキュアな接続環境提供
 - √ 攻撃防止能力の向上
 - ✓ 速やかな事故対応
 - →学術機関全体の底上げ



大学CSIRTの立ち上げ支援と連携

- SINET5による接続形態の変更
 - ◆ 全ての大学が各県のDCに接続
 - ◆ DCで流量監視→不審な動きの察知→当該大学に連絡
- 原則として、当該大学のCSIRTが現場対応
 - ◆運用委託企業との連携が重要
 - 守秘義務/契約による自主的対応への足かせ
 - ◆一つの企業が複数の大学の運用を担当
 - 類似事案を把握している可能性大
- ■大学間の直接の情報交換は難しい
 - ◆私情協やSINETを通じた情報交換
 - ◆運用委託企業の技術レベルの底上げ

まとめ

■標的型攻撃

- ◆第一波攻撃の検知と被害防止は極めて困難
 - 一人でも突破されると組織内NWへの侵食開始
 - 内部NWの監視が必須に
 - ✓ VLAN+アクセス制御+巡回監視
- ◆クラウド時代の到来
 - サーバだけでなくクライアントもVM化
 - どこのHWで稼働しているのか?
 - バランスの取れたインシデントレスポンス耐性の確立
- 新たなディバスのネットワーク接続急増
 - ◆悪意の無い探査活動の急増
- ■新たな大学間連携の枠組み構築